

52 強みを活かして企業連携

株式会社かね久 [宮城]



2020年11月に移転した新社屋の全景

株式会社かね久

代表者	遠藤 伸太郎 (代表取締役)
業種	食料品総合卸売業
電話番号	022-353-7697
設立	2014年2月
所在地	宮城県仙台市若林区卸町2丁目6-4 Kanekyuビル
業務内容	地域商社・挽きたて生パン粉・ 業務用食料品卸売業・新商品開発・ イベント企画



人気商品「牛たんコロッケ」

1 被災するが、営業譲渡で再スタート

遠藤代表取締役は、震災前に株式会社金久商店に入社し、事業承継の予定だったが、震災で社屋が半壊、自宅も流された。震災の影響は大きかったが、2014年に株式会社金久商店(創業70年)から営業譲渡を受け、株式会社かね久を設立。新たなスタートとなった。パン粉メーカーであり、業務用食料品総合卸売業。生パン粉や粉(小麦粉・ミックス粉)を使用したコロッケ・フライが当社の主力商品だ。

2 強みを活かして企業連携
良いものをつくるのが重要

企業の強みを活かしてネットワークを構築し、県内企業約30社でプロジェクトに取り組んでいる。企画内容や販売規模に合わせ、大手企業や地元企業との連携先を考慮し選択する。連携のポイントは、各社の強みを活かすことである。

大手企業と組むメリットは地元企業では持っていない企業ノウハウ、販路、ネットワーク、先進技術力である。

大手企業とコラボレーションし、SDGs 関連商品として大豆肉などを活用した新商品開発を積極的に行う。地域食材である水産物や畜産物など、食材の強みがある企業と連携し企業ノウハウを最大限に引き出す。現在、牛たん&大豆肉のひとくちステーキを開発中。企業間の連携



宮城大学の学生と海外留学生との懇談

を深め、各社の強みを活かし、連携型の商品開発を行っている。5つの強みを掛け合わせた経営戦略(企画力×商品開発力×地域力×販売力×仕入力)以上の強みを組み合わせたビジネスモデルの構築がポイントだ。

販売先は全国のメーカー、飲食店、中食、JR 関連、宿泊・観光施設等にも販売している。大手通販会社も最近増加傾向にある。牛たんコロッケは、仙台名物である牛たんと仙台味噌を中心部に入れ、中に詰まった牛たん食感が評価されている。

3 ニーズに合うものをつくり、他の業界とも連携

「市場のニーズに合うものを製造することが重要である。商社として、仕入～販売までスケールメリットを最大限に活かし、販売開始する時点ですでにお客様が決まっています。」と遠藤代表取締役は語る。

また顧問税理士である旭日税理士法人(桑畑弘道代表理事)とは二人三脚で経営戦略を練り、携わりが強い。食品のみではなく、他の分野(観光、アパレル、不動産、物流、メディア他)との異業種連携も視野に入れて事業を行う。当社は生パン粉メーカーとして食材の特徴に合わせた商品設計を行い、食べるシーンやタイミングによってカスタマイズが必要なのである。例えば、「カキ」などの水産物は旨味や水分が多く、具材の良さを活かすよう、打ち粉、バターミックス、生パン粉の組み合わせを処方設計する。お客様のニーズを実現する為、蓄積した経験とノウハウが重要である。

4 FOODEX JAPAN2020
ご当地ソルフード部門で「牛たんコロッケ」が第1位

業務委託は可能な限り宮城県内



かね久のスタッフの皆さん

に集約し、地元メーカー・工場の稼働と雇用促進につなげている。「食」で宮城県内の魅力を発信し、新商品の発信と共にシティーセールスにつながる食の観光プロモーションを行っている点は地域への貢献である。

観光誘客には「食」は絶対欠かせないカテゴリーであり、これまでの取組や商品力が評価され、FOODEX JAPAN 2020「中小企業総合展 うまいものがたり」開催事前アンケートでかね久開発の「牛たんコロッケ」が「食べてみたいもの?」ご当地ソルフード部門で当社は第1位となった。地域貢献を行う地域商社としてポジションを獲得したのである。

5 SDGs を見据えた経営

今年の1月に、震災から10年を迎えるにあたり、全世界・全国の皆様の応援に感謝を伝える為に、魅力ある持続可能な社会を目指し、「食のみやぎ応援団 SDGs 宣言」を開催。

パートナー企業約30社、サポーター企業約10社、宮城県や宮城大学と産学官連携モデルを構築。一般社団法人食のみやぎ応援団と当社が中心となり、みやぎの食産業のリーディングカンパニーとして地域創生に寄与する。被災を見事に乗り越え、異業種や企業と連携しながら「かね久」は次のステージに向かっていく。